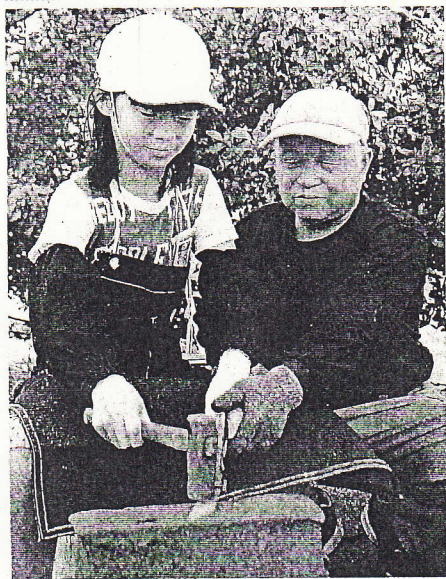


小学生鍛冶に挑戦

◆長岡市◆ 与板地域の特産物である打刃物を知ってもらおう



職人の指導を受けながら鍛冶に挑戦する児童

つと、市立与板小で鍛冶体験教室が開かれ、4年生約70人が鍛冶作業に挑戦した。

与板の打刃物は、戦国時代の上杉家の家臣が刀鍛冶を連れてきたのが起源とされる。時代を経て刀剣からカンナなどの大工道具の製造に移り、1986年に国から伝統工芸品の指定を受けた。切れ味の良さは高く評価されているが、家屋の建築様式の変化で大工道具の需要が減少。与板の打刃物職人も約20人となり、高齢化が大きな課題だ。体験教室は、職人や卸業者で「つくる「越後与板打刃物匠会」が後継者の育成につなげようと、3年前から同小で行っている。5日、児童らはナイフの切れ味を良くするための作業を行い、匠会の職人の指導を受けながら、赤く熱された鋼を金づちでたたいた。五十嵐木春(こはる)さん(9)は「暑いし手が痛くなった。大変な仕事だと感じた」と感心した様子。匠会の久住誠一会長(80)は「子どもたちが与板の伝統技術に興味を持ってきているので、希望を持ちたい」と話していた。